巻頭言

「繋がる技術」

代表取締役常務執行役員　建築本部長

黒柳 辰弥

2016 年リオオリンピックも終わり，いよいよ 4 年後の東京オリンピックに向けて整備工事や建設工事がこれまで以上に加速してくることであろう．

今回のオリンピックにおいては，日本は過去最高数 41 個のメダルを挙げられたことは大変喜ばしいことであった．メダルを獲得するためには，常に新しい技術に挑戦し技を磨いていくことと同時に基本に戻り確実に実行していく事が大切であることを痛感させられた．

前回の 1964 年の東京オリンピックの男子体操チームの演技にて難度の高き技術を C 難度ウルトラ C と呼んだと聞いた．それ以来，技術の改良や改善が繰り返し行われ，今回のオリンピックの最高難度の技は I 難度まで進化した．

これは繰り返し繰り返しの試行錯誤や発想の転換を持って行い結果を出して，またその結果にさらなる改善を行うという強い意志を持って成し遂げたチームの力であると考える．

我々，ピーエス三菱グループにおいても，既存施設の更新や新設工事においてこれまで先人の技術者が築き上げてきた技術の基本をよく確認の上で，確実に守り，先人より伝承されてきた技術に新しい知恵を加えて，生き残っていく技術を養っていく事が肝要である．少子高齢化と団塊の世代の退職などの影響により慢性的に不

足している人材の不足が補われる技術に向けた取り組みに力を注ぎ，モノづくりの会社としての力を発揮していただきたい.

　またその技術をチームピーエス三菱の力となるように伝承していく事により，より密度の高い管理が継続してできる力としていただきたい.

　今回の技報においては，ピーエス三菱、ニューテック康和並びにピー・エス・コンクリートの掲載を入れ 38 件の報告・発表がされている.

　まずは目を通していただきたい.

　今，基本に忠実に取り組んでいる仕事にプラスアルファーされる技術もあるだろうし，新しい発想としてプラスアルファーされる技術もあることだろう.

　また今後取り組む仕事においては参考にしていただき，さらに改善してより良い技術として，今後の技報へ掲載される技術に取り組んで頂けることに期待している.

2016 年 8 月